

かごしま黒豚に対する橙色系さつまいも配合飼料の給与試験

○石原康弘・小村喜久男・生駒エレナ・大小田勉
(鹿児島農総七畜試)

【目的】

かごしま黒豚（パークシャー種）の飼養条件としては、肥育後期にさつまいも（乾燥したもの）を 10 % 程度配合した飼料を 60 日以上給与することとしている。

飼料原料が高騰する中、飼料コストの低減を図るため、県農業開発総合センター大隅支場においてさつまいもの多収品種の選定試験を行った結果、有望な系統が見つかったものの、その果肉は橙系であった。

そこで、橙色系さつまいもを配合した飼料を給与した場合、その色素がかごしま黒豚の脂肪色に何らかの影響を及ぼすか調査・検討した。

【材料および方法】

試験は、2012 年 11 月から 2013 年 2 月に実施した。さつまいもを含まない配合飼料（CP14 %，TDN75 %）に乾燥した橙色系さつまいも（系統名：「関東 138 号」，「ベニハヤト」混合）を 10 % 配合した区（以下、試験区）と、同じく乾燥した白色系さつまいも（「シロユタカ」，「タマユタカ」等混合）を 10 % 配合した区（以下、対照区）の 2 区を設けた。供試豚は同腹産子の去勢豚で各区 3 頭ずつ配置した。後期用飼料の給与開始時の体重は平均 71kg で、体重が 110kg を超えた時点で出荷した。橙色系及び白色系さつまいも給与は、平均体重 86kg から開始した。飼料は制限給与（上限 2.9kg / 日）で、自由飲水とした。食肉処理場でと畜解体後、枝肉成績及び肉質成績を調査するため、左半丸を持ち帰った。

調査項目は、肥育期間、出荷日齢、出荷体重、一日増体量、飼料摂取量、飼料要求率、と体長、と体幅、枝肉重量、背脂肪厚、ロース芯面積、色差、肉色、脂肪色、加熱損失率、ドリップロス、剪断力価、脂肪融点とした。

【結果および考察】

肥育期間と出荷日齢は試験区が長くなり、飼料摂取量も試験区の方が多かった。その他の項目では大きな差はなかった（表 1）。

色差計による脂肪の測定値、目視による脂肪色（PFS）は対照区との間に有意差はなく、橙色系

さつまいも給与による脂肪色への影響は認められなかった（表 1）。

肉質成績は、各項目ともほぼ同等の結果となった（表 2）。

以上の結果から、かごしま黒豚に対する橙色系さつまいもの利用が可能であることが示唆された。

表 1 飼養成績および枝肉成績

	対照区	試験区
肥育期間 (日)	86.3 a	96.7 b
出荷日齢 (日)	227.3 a	236.7 b
出荷体重 (kg)	114.0	114.7
一日増体量 (g/日)	513.8	443.6
飼料摂取量 (kg)	222.2 a	246.2 b
飼料要求率	5.03	5.80
と体長 (cm)	96.8	97.2
と体幅 (cm)	33.9	34.8
枝肉重量 (kg)	70.2	69.8
背脂肪厚 (cm)	2.4	1.9
ロース芯面積 (cm ²)	20.4	17.7
色差		
外層脂肪 L 値	71.0	70.6
a 値	1.1	0.8
b 値	4.4	4.1
内層脂肪 L 値	70.6	70.5
a 値	2.0	2.0
b 値	4.4	4.0
腎脂肪 L 値	71.9	69.2
a 値	4.6	3.9
b 値	4.9	5.5
肉色 (PCS)	2.5	2.3
脂肪色 (PFS)	1.0	1.0

※異符号間で有意差あり (P < 0.05, t 検定)

表 2 肉質成績

	対照区	試験区
加熱損失率 (%)	21.9	23.2
ドリップロス (%)	2.0	1.7
剪断力価 (kg)	5.8	5.1
外層脂肪融点 (°C)	38.0	37.8
内層脂肪融点 (°C)	40.8	41.1
腎脂肪融点 (°C)	44.8	44.5